

二〇二三年度

目白研心中学校入学試験問題

【第一回】

国語

〈注意〉

- (一) 時間は五十分です。
- (二) 問題用紙は一ページから九ページまであります。最初に確認しなさい。
- (三) 問題は二から四まであります。答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
- (四) 筆記用具はHBの鉛筆またはシャープペンシルと消しゴムを用意しなさい。
- (五) 文字はていねいに、はっきり書きなさい。

受験番号

氏名

- 【一】 次の①～⑤の漢字には読みをひらがなで記し、⑥～⑩のカタカナは漢字に直しなさい。

- ① 大学で経済学を修める。
- ② 返事を保留する。
- ③ この薬はよく効く。
- ④ 山の頂に到着する。
- ⑤ 縮尺百分の一の地図。
- ⑥ 中学でエンゲキ部に入った。
- ⑦ 世界ジョウセイに関心を持つ。
- ⑧ 卒業式でシユクジを述べる。
- ⑨ 読書にヨネンがない。
- ⑩ 国家をサイコウする。

- 【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(問題作成上、本文に省略した部分があります。)

人間の特徴とは何だろうか？ そして、人間を人間として発達させたものは何だろうか？ 火や道具を使うようになったことは、間違いなく、その一つだろう。あるいは、言葉や文字を使うようになったことも、そうだろう。しかし、意外なことに①「老いる」こともまた、人間の特徴的な性質なのだという。これは、どういうことだろうか？

動物だけである。

【C】 その特別な環境を作り出した人間も、「老いる」ことのできる特別な動物なのだ。

火を手に入れ、道具を扱うように、人間は「老いる」ことを獲得したのだ。ペットとして飼っているイヌやネコは年老いるが、ペットとして飼っているカブトムシは老いることなく死んでしまう。

それでは、どんな生き物が老いるのだろうか。

金魚などの魚はどうだろう。金魚は年を取ると動きが鈍くなったりするが、イヌやネコのように②老いさらばえるようなことはない。

カメやトカゲ、ヘビなどの爬虫類をペットとして飼っている人もいるだろう。

爬虫類も体が大きくなるが、哺乳類のような老化は見られない。

鳥はどうだろう。

セキレイインコやオウムは、老いる感じがする。

どうやら、鳥類や哺乳類は老いるようだ。

それでは、どうして鳥類や哺乳類は老いるのだろうか。

じつは、「老いる」ということには、生物の進化が関係している。

ここで、昆虫の生存戦略と、哺乳類の生存戦略を比較してみることにしよう。

昆虫の生存戦略の基本となるのが、「本能」である。

「本能」を高度に発達させたのが昆虫で、親から何も教わらなくても生きていくことができる。たとえば、卵から生まれたばかりのカマキリの赤ちゃんは、誰に教わらなくても鎌を振り上げて小さな虫を捕らえて食べる。ミツバチは、誰に教わらなくても六角形の巣を作ることができる。そして、教わったわけでもないのにダンスをして仲間(仲間)に花の蜜のありかを伝える

私たちは「老いて死ぬ」ことは当たり前だと思っているが、じつは、老いることのできる生物は少ない。

考えてみてほしい。

たとえば、セミは夏が終わると死んでしまう。この間まで元気に鳴いていたかと思うと、次の日には命が尽きてしまうのだ。カブトムシもトンボも若々しいときの姿そのままに、突然、寿命が尽きてしまう。

魚はどうだろう。

サケは卵を産むために、川を遡上することが知られている。しかし、あんなに力強く川を遡上してきたはずなのに、卵を産み終えるとあっけなく死んでしまう。

サケには「老いの時間」はないのだ。

こうして、多くの生物が、卵を産み落とす子孫を残すと、その寿命を終えるのである。

一方、私たち人間は老いる。老いて死ぬことは、特別なことなのだ。

【A】 次のように思う方もいらっしゃるだろう。

「老いることは、人間の特徴だというのが、ペットとして飼っているイヌやネコも年老いていくではないか」

その通りである。そういえば、動物園のゾウやライオンも、長生きして年老いていくイメージがある。

ただし、自然界で野生動物が老いることは難しい。体力が落ちれば、天敵に襲われたときに逃げ切れなかったり、暑さや寒さ、飢えなどを乗り越えることも難しくなる。【B】 少しでも衰えを見せた個体は、老いる前に死んでしまうのだ。

②動物にとつても、老いることは特別なことである。

老いることのできるのは、ペットや動物園の動物など、人間が作り出した環境に暮らす

のだ。

虫たちは、「本能」という仕組みだけで、誰に教わらなくても生きていくために必要な行動を取ることができるのである。

それに比べると、私たち哺乳動物はずいぶん面倒である。

何しろ、生まれたばかりの赤ちゃんは、一人では生きていくことができない。かろうじておっぱいを飲むことくらいは教わらなくてもできるが、人間が本能でできるのはこれくらいである。

ライオンやオオカミなどの肉食動物の子どもは、親から獲物の捕り方を教わらなければ、狩りをする<sup>か</sup>ことさえできない。シマウマなどの草食動物も同じである。親が逃げれば、いっしょに逃げるが、そうでなければ、何が危険なのかさえわからない。

私たち哺乳動物にも本能はあるが、昆虫ほど完璧にプログラムされた本能は持ち合わせていない。教わらなければ何もできないのである。

どうして、私たち哺乳類は、昆虫のように本能で生きるような仕組みを発達させてこなかったのだろうか。哺乳類は昆虫よりも、劣った存在なのだろうか？

③高度に発達した本能は、優れてはいるが欠点もある。

たとえば、今にも干上がりそうな道路の水たまりに、トンボが卵を産みつけていることがある。そんなところに卵を産めば、幼虫や卵が干上がってしまうのではないかと心配してしまうが、トンボは④何食わぬ顔で平気で卵を産んでいく。

それどころか、地面に敷かれたブルーシートの上に卵を産むことさえある。水面と間違えてしまっているのだろうか。

トンボは、遠くから小さな虫を獲物として捕らえるほどの視力を持っている。その目でもく見れば、そこが卵を産むべき場所でないことは、容易にわかりそうなものである。

おそらくは、「地上で陽の光を反射させているところに卵を産む」とでもプログラムされているのだろう。その本能に従って卵を産んでしまうのである。

アスファルトの道路やブルーシートがない時代には、そのプログラムで問題はなかったはずだ。しかし残念ながら、人工物の多い現代では、そのプログラムに適合しない場所も多い。それでもトンボたちは、生まれながらに持つ本能のプログラムに従って、正しくない場所に卵を産んでしまうのである。

あるいは、狩人バチは、他の昆虫などを獲物として捕らえると、巣に持ち帰って幼虫のエサにする。だが巣に持ち帰る途中でエサを落としても、捜そうとせず、そのまま巣に飛んで帰る。

あるいは、太陽の光で自分の位置を判断する昆虫たちは、暗闇に輝く電灯のまわりに集まってくる。

昆虫は、本能のプログラムに従って機械的に行動するために、誤った行動をしてしまうことがあるのである。

これが、本能の欠点である。

決まった環境であれば、プログラムに従って、正しく行動することができる。ところが、想定外のことが起こると、対応できないのである。

それでは、環境の変化に対応するためには、どのようにすれば良いのだろうか。

昆虫が高度な「本能」を発達させたのに対して、生きるための手段として高度な「知能」を発達させたのが、私たち人間を含む哺乳類である。

「知能」を進化させた哺乳類は、自分の頭で考え、どんな環境に対しても **X** に行動することができる。どんなに環境が変化したとしても、情報を処理して、状況を分析し、最適な行動を導き出す。これこそが、「知能」のなせる業である。

たく違う。

それでは、水面とブルーシートはどこが違うのだろう。

「表面がキラキラと輝いている」というだけの情報では、トンボと同じように、水面とブルーシートを区別することはできない。

「ブルーシートは青い」と定義してみても、水面が青空を映していれば区別できない。もちろん、触ったり、めくったりすれば、簡単に区別することができる。それは私たちが、

「水面はそこに手を入れることができるが、めくることはできない」という情報を持っていくからである。

もつとも、触らなくても水面とブルーシートは見た目がまったく違う。しかし、簡単に区別はつくが、どこが違うかと改めて問われてみると、説明することは意外と難しい。

説明することはできないが、違うものは違うのだ。

(稲垣栄洋『生き物が老いるということ』)

※1 遡上……さかのぼること

※2 老いさらばえる……年老いてみすばらしくなること

※3 マニュアル……手引書、説明書

問一 —— 線①『老いる』こともまた、人間の特徴的な性質なのだという。」とありますが、そういうのはなぜですか。本文の言葉を使って、三十〜四十字で答えなさい。(句読点も数える)

- 問二 空らん **A** **D** に当てはまる語を次から選び、記号で答えなさい。
- ア すなわち      イ もちろん      ウ または
- エ そして      オ しかも      カ そのため

知能を持つ哺乳動物は、ブルーシートに卵を産んでいるトンボの行動が正しくないことをすぐに判断できるし、狩人バチのようにエサを落としてしまったら、すぐに捜して拾い上げる。太陽と電灯を間違えることもない。

このように、⑤知能は極めて優れた能力を持つのである。ところが、「知能」にも欠点がある。

長い進化の過程で磨かれてきた「本能」は、多くの場合、正しい行動を導くマニュアルである。⑥本能には、解答が示されているのだ。

たとえば、地球の歴史を考えれば、長い間、ブルーシートなどというものはこの地球に存在していなかった。ブルーシートさえなければ、トンボの行動がエラーを起こすことはありえないのだ。また狩人バチがエサを落とすというアクシデントが、いったいどれほどの頻度で起こるだろう。滅多に起こらないリスクのために、複雑なプログラムを書き換えるほうが別のエラーを起こす原因となる。稀にエサを落とした狩人バチがいたとしても、巣に帰ってから、もう一度、新たなエサを探しに行けばいいだけの話である。

一方の知能は、自分の頭で解答を導かなければならない。

たとえば、水面とブルーシートを識別するためには、水面とどのようなものなのか、ブルーシートとはどのようなものかを認識し、水面とブルーシートの違いを自分の頭で理解しなければならぬ。

**D**、自分の頭で考えて導き出した解答が、正しいとは限らない。さんざん考え抜いた挙句、誤った行動を選んでしまうということは、私たち人間でもよくあることだ。それでは、知能が正しい判断をするためには、どのようにすれば良いのだろうか。状況を正しく分析するためには、データが必要である。

たとえば、トンボにとっては同じに見えても、私たちにあって水面とブルーシートはま

問三 —— 線②「動物にとつても、老いることは特別なことである。」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間は道具や火を使うことで、自然環境に適応し寿命を延ばしてきたが、動物たちは環境に適応できなければ絶滅するしかないということ。
- イ 人間が科学技術を発達させて、自然を変えていったことで、野生動物が生きのびる環境が破壊され、個体数が減ってしまったということ。
- ウ 人間が作った環境に慣れている動物たちは長く生きのびることが可能だが、それ以外の動物は厳しい自然界で命を落とすのが普通だということ。
- エ 人間は高度な知能を使って厳しい自然環境から身を守ってきたが、動物は本能のままに行動して生存する道を探るしかなかったということ。

問四 —— 線③「高度に発達した本能は、優れてはいるが欠点もある。」とありますが、「本能の欠点」とはどのようなことですか。その具体例として最も適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昆虫たちが夜になると、暗闇の中の電灯のまわりに集まってくること。
- イ トンボが遠くからでも小さな虫を区別できるほどの視力を持っていること。
- ウ 狩人バチが他の昆虫などを獲物として捕らえ、巣に持ち帰ってくる。
- エ トンボが道路の水たまりや地面のブルーシートの上に卵を産みつけること。
- オ ミツバチが六角形の巣を作り、ダンスで花の蜜のありかを仲間教えること。

問五 —— 線④「何食わぬ顔で」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 何も気づいていない様子で
- イ 自分とは関係がない様子で
- ウ 自信に満ちあふれた様子で
- エ まるで理解できない様子で

問六 空らん X に当てはまる四字熟語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 用意周到
- イ 心機一転
- ウ 適材適所
- エ 臨機応変

問七 ———線⑤「知能は極めて優れた能力を持つ」とありますが、「知能の優れた能力」とはどのようなことですか。本文の言葉を使って四十〜五十字で答えなさい。(句読点も数える)

問八 ———線⑥「本能には、解答が示されているのだ。」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 哺乳動物は自然環境が変化したとしても、生来の力によって直感的に判断し、危機を切りぬける行動を取るということ。
- イ 哺乳動物は長い進化の過程の中で、間違った行動を取ったとしても、すぐに修正する能力を身に付けてきたということ。
- ウ 昆虫は親から何も教わっていなくても、決められた行動を取ることによって自然界を生きのび、子孫を残してきたということ。
- エ 昆虫は知能が発達していないため、本能のプログラムにエラーが生じてもなかなか修正することができないということ。

てっちゃんに致命的なダメージを与えたゆっちゃんは、キヤツと叫んで、その場からすばやく逃げ出す。

こんなとき、てっちゃんは、自分をからかった日出子やゆっちゃんに泣きながら暴力をふるったりしない。それは、人を恨む気持ちもちあわせていない天使のごとき純な子どもだからではなく、①自分で脚色した不幸なシナリオから、自力で脱出できないからだ。

日出子とゆっちゃんに騙されたとわかって、てっちゃんの心象風景では、家族はいまだ濁流にのみこまれ、断末魔の悲鳴をあげているのだ。台風対策の最中、心のどこかで台風を待ちわび、なんとなくわくわくしてしまつた不謹慎な自分が、この惨事の元凶だと思ひこんでしまつたてっちゃんは、そこから簡単には解放されず、嵐の中を彷徨いつづける。

うぐうー、たすけてー!

時刻は午後四時三十分をまわつた。

※4 黄昏を省略してしまつたのか、天から黒幕がドスンと下りて、あたりはまっ暗になつた。雨風もいちだんと激しさを増してきた。東海道線が不通にならないうちに、夫や息子たちに戻ってきてもらいたい。廊下の隅にたつた手の文鳥の籠を、放心したようにぼーっと眺めているてっちゃんが唯一の男では、はなはだ不安だ。

男たちの帰宅を日出子が真剣に心配しはじめると、それを察したかのように、長男と次男が、②二匹のあわれなヌレズミとなつて戻つてきた。その三十分後には、明も、骨がばらばらに壊れた傘を振りまわしながら帰つてきた。

その夜、家族はロウソクの灯を囲んで、豚汁とにぎり飯の夕食を早々にとつた。そうしようとなつた誰かが言ひだしたわけではないが、家族は、茶の間と隣の八畳間にずらりとふとんをならべ、ひとかたまりになつて寝ることにした。てっちゃんだけでなく、家族みんなの頭の

問九 次のうち、本文の内容と合っているものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人間のように知能が発達した生き物は長生きをし、本能が発達したものは寿命が短い。
- イ 人間は老いることができるが、その他の生き物はすべて老いる前に命を終えてしまう。
- ウ 人間の目で見ればブルーシートと水面の違いはわかるが、説明するのは簡単ではない。
- エ 人間は知能によって、情報やデータを分析し、常に正しい判断をすることができる。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(問題作成上、本文に省略した部分があります。)

小学生のてっちゃんは神奈川県・茅ヶ崎で父(明)と母(日出子)と兄二人と姉のゆっちゃんと暮らしている。ある夏の夜、台風がやってきて、ひと晩中はげしい雨風が吹き荒れた。以下はそれに続く場面である。

ガダガタツと、台所の窓が、突風に鳴つた。あたりはいちだんと暗くなつてきた。横なぐりの雨も降り出した。きたきた。※1 じーんてつに、「涙がきている。もうひとこと。だめ押し、決定的なひとことで、じーんてつの中の瞳に盛り上がった涙が、決壊する。

そのひとことを、日出子が、さらりと言つてのける。

「てっちゃん、短い間だったけど、あなたを子どもにもつて、幸せだったわ」

じーん、じーん。

表面張力の限界をこえた涙が、ついに、てっちゃんの瞳からこぼれた。

「あつ、泣いてる」

待つてましたとばかりに飛びはね、ゆっちゃんは、満面にほほえみ。

「えつ、えつ、まさか、ほんとうに泣いてるんじゃないでしょ? あつ、でも泣いてるんだ。

悲しいから泣いてるんだ。かわいそう、かわいそう」

中に、一家離散という文字が渦巻いていたのかもしれない。

夜通し暴れまわつた台風二十二号は、ラジオで伝えられた警報どおりの激しさだった。江の島に上陸した後も勢力は衰えず、四百ミリの豪雨で狩野川を決壊させ、関東地方をわがもの顔で縦断していった。犠牲者の数は、死者・不明者を合わせると千二百名以上に達した。茅ヶ崎では幸いにも犠牲者はでなかつたものの、四棟の家屋が全壊し、七十三棟が床上浸水した。

翌日の青空はみごとだった。(中略)

それで河津家はどうなつたかといえば、全壊はまぬかれたものの、やはりかなりの被害をこうむつた。南側の塀というか柵というか、粗末な竹製の囲いは全滅。屋根瓦が二十枚ほど飛ばされ、砕け、庭に散乱した。庭木もかなりのダメージを受けたが、柿や松などの老木は、びくともしていなかつた。あてにしていなかつたボロ戸戸は補強が功を奏したのか、十二枚とも無事だった。しかし戸袋の板が数枚剥ぎ取られ、粗土の内壁が、病巣に蝕まれた内臓のようにさらけ出された。

家の中とはいえ、雨漏りは少なくとも二十か所はあつたが、それより家族が目を見はつたのは、長廊下のちようどまん中だ。

③ おい、みんな、おいで」

明がいち早くそれを見つけ、家族を集めた。見上げると、天井板に、直径十センチほどの穴がぽっかりあいていた。穴はコンパスで弧を描いて切り取つたように円く、そこから、小さな青空が、清々しく輝いていた。

「きれいだね」

ゆっちゃんと明人が口をそろえ、天井にはりついた円い青空を見上げた。

「まさに台風一過の青空だな」

「うーん、そうだね」

明は、長男の茂樹と肩を並べて、小さな青空を拝んだ。

「④あら、たいへんだわ。屋根が飛んじやったのよ。ねえ、おとうさん、梯子かけて屋根にのぼってみてよ」

肩を片方だけつりあげて、日出子が言った。

「いいから、もっと見なさい。台風一過の青空とは、まさに、こういう空のことをいうんだよ。これは、なかなか見られるもんじやない。歴史的だな」

「そんなこと言って、また雨が降ってきたらどうするの？ 大工さんが来てくれるまで、応急処置をしておかないと、家の中が水浸しになるわよ」

「いいから、見なさい」

「はいはい」

と返事はしたものの、日出子はふたたび青空を見上げることなく、あわただしく庭へ出ていった。

人一倍不器用な明が屋根にのぼっても、埒があかないことは、日出子がいちばんよく知っている。明は、釘一本打てない男だ。自転車のタイヤに空気を入れるのすら[A]苦[B]苦する。それでしまいいは、イライラして放り投げてしまう。自分で風呂をわかったことも、米を研いだこともない。この台風に対しても、男としての力仕事は、なにひとつしなかった。「これは緊急事態だな」をくりかえし、子どもたちによい恐怖心を植えつけた。そんな明だから、いくらおだてても、けっして屋根にはのぼらないはずだ。

「まったく、台風一過より修理よね。てっちゃん、梯子出すの手伝って」

庭先で日出子が叫んだ。

「ぼ、ぼくが、屋根にのぼるの？」

ところがだ。

てっちゃんの疑問は、ゆっちゃんの疑問でもあったのだ。

「ねえ、おかあさん。タイフウィツカってなんのこと？ なんだか、清水次郎長一家みただけで、そういうのと違うんでしょう？」

てっちゃんの表情が、台風一過の青空になった。 (かしわ哲『孝ヶ崎のてっちゃん』)

※1 ジーンてつ……すぐに「ジーン」となって泣いてしまってたっちゃんのこと

※2 心象風景……心の中のイメージ

※3 断末魔……非常に苦しいさま、死ぬときの苦痛

※4 黄昏……夕方の薄暗い時。夕暮れ

※5 清水次郎長……江戸時代の芝居の登場人物

問一——線①「自分で脚色した不幸なシナリオ」とありますが、台風の中でてっちゃんが描いた「不幸なシナリオ」とはどのようなものですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 台風が上陸することで、家族全員が離れ離れになってしまうかもしれないということ。
- イ 父が不在なのをいいことに、母と姉がさらに自分のことをからかいにくるということ。
- ウ 恐れていた台風の影響で、兄や父が出先から帰宅できなくなってしまったということ。
- エ 台風が来ることを自分が楽しみにしていたことが、この被害につながったということ。

問二——線②「二匹のあわれなヌレネズミ」とありますが、これは誰のどのような状態のことを表現していますか。二十〜二十五字で答えなさい。(句読点も数える)

問三——線③「おい、みんな、おいで」とありますが、明は何を見せようと家族を集めたのですか。本文から十字以内でぬき出して答えなさい。

「明人かお兄ちゃんにのぼってもらうから、だいじょうぶよ。早く出てきて」

てっちゃんはサンダルをつっかけ、台風の爪跡が生々しい庭に出た。

見上げると、廊下の天井にはりついていていた小さな青空が、空一面にひろがっていた。どこに、こんなにたくさん青があったのだろうか？ 前日の暗雲の彼方に、この爽やかな青がひかえていたとは、どういふことなんだろう。てっちゃんは、不思議な青空から降り注ぐ光と大気を、胸いっぱい吸いこんだ。

「⑤でも自然って不思議ね。昨日の今日だものね。こんなに晴れるなんて、やっぱり台風一過ね」

日出子が、明に聞こえないように、こっそり言った。てっちゃんはそれに相づちをうちたかったが、それどころではなかった。⑥青空の大気を吸いこんでも晴れない疑問が、この中でわだかまっていた。いままなら日出子とふたりきりなので、その疑問をはらすチャンスだ。兄や姉がそばにいと、バカにされるから聞けない。いまを逃してはならない。てっちゃんは、思い切って聞いてみることにした。

「ねえ」

言いかけたそのとき、

「あたしも手伝うよ」

ゆっちゃんが庭へ出てきた。

ああ、もうダメだ。⑦ゆっちゃんが出てきたらダメだ。

てっちゃんは聞きたかった。どうしても聞きたかった。「タイフウィツカ」って、どういう一家なのか。その一家が運んできた青空って、どういうことなのか。それがわからなかった。でも、それをゆっちゃんに聞かれたら、まずい。とてもまずい。そんなことも知らないのって、バカにされる。

問四——線④「あら、たいへんだわ。屋根が飛んじやったのよ。ねえ、おとうさん、梯子かけて屋根にのぼってみてよ」とありますが、なぜ日出子はそのように言ったのですか。本文の言葉を使って三十〜三十五字で答えなさい。(句読点も数える)

問五 空らん[A]・[B]に適切な漢数字を入れ、「非常にくるしいこと」という意味を持つ四字熟語を完成させなさい。

問六——線⑤「でも自然って不思議ね。」とありますが、日出子はどのようなことを不思議に思っているのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 今までに見たこともない色の空が一面に広がっていること。
- イ 暗雲の雲の上にはいつでも青空が広がっているということ。
- ウ 昨日の台風の爪跡が一夜にして、跡形もなく消えていること。
- エ 暗雲におおわれていた空が、すっかり晴れ上がっていること。

問七——線⑥「青空の大気を吸いこんでも晴れない疑問」とありますが、どのような疑問ですか。本文の言葉を使って二十五〜三十字で答えなさい。(句読点も数える)

問八——線⑦「ゆっちゃんが出てきたらダメだ。」とありますが、ゆっちゃんが出てくるなぜ「ダメ」のですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ゆっちゃんに自分が「タイフウィツカ」のことを知らないことをからかわれると思っだから。

イ 以前から「タイフウイツカ」のことは自分一人だけで母に聞いておきたいと思っ  
たから。

ウ 本当は自分とゆっちゃんとは仲が悪いということ、父や母には絶対に知られたくな  
ったから。

エ いじわるなゆっちゃんに、自分がずっと隠し続けていた悩みを知られてしまうこと  
なるから。

問九 次のうち、本文の表現について説明したものと最も適当なものを選び、記号で答  
えなさい。

ア 台風が来たことで明らかになった夫婦の間の溝が、淡々とした文体で描かれている。

イ 台風が過ぎた後の家族のやり取りが、簡単で親しみやすい文体で明るく描かれている。

ウ 台風が過ぎたことで安心する一家の思いが、家族一人ひとりの視点で描かれている。

エ 台風が家屋に与えた被害の深刻さが、情景描写を中心にして重々しく描かれている。

四 次の各問いに答えなさい。

問一 次の——線部を正しい敬語表現に書きかえなさい。

- ① 先生が私の絵を見る。
- ② 私は何時に行けばよろしいでしょうか。

問二 次の①～③の空らんに入る語として正しいものをあとから選び、記号で答えな  
さい。

- ①  を巻く (とても感心して、驚く様子)
- ②  にあまる (度を越して、だまって見てられない様子)
- ③  を焼く (とりあつかいに困る様子)

ア 手    イ 腹    ウ 舌    エ 目    オ 首

